

インタビュー

匠ソリューションズ(株)
代表取締役副社長

大江良一氏



第三者検証サービスを一発完動を実現してLSIのリメイクを撲滅することを目的に、設計スキ

でいさせるところが強みだ。ケイデンスやシンプシスといった大手EDAベンダーの協力を得つ

おり、半導体メーカーではなくシステムメーカーや自動車関連メーカーからの依頼が多い。このた

多彩な研究開発事業を手がけていますね。大江 当社は東北大学や名古屋工業大学とつながりが深く、戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)の公募を通

じ、信号処理や画像処理技術をベースにした4製品の開発に取り組んできた。アナログ設計の効率化を実現するプラットフォーム開発を皮切りに、①レアアースレスモーター制御用のソフト・システ

②では、高精度・低電力のセンサーを低価格で提供する。スマートハウスに不可欠となる有害物質監視・警報システムを開発中で、東北大学レジリエント社会構築イノベーションセンターとの共同開発が決定した。

③では、1000Aクラスまで0.5A単位で測定可能な電気自動車用電流センサーを開発しており、デジタルアシストADC技術を活用する。このセンサーはメガソー

第三者検証から設計業務を強化

サポインで開発した自社製品投入へ

ルをベースにしてデジタル、アナログ、プロトタイプ、の第三者検証業務およびLSI・FPGA・ファーム設計業務を手がけてきた。

つ、最先端のEDAツールをいち早く活用し、検証品質の測定や改善までお手伝いできる。

めFPGAの設計・検証に関する引き合いが多く、センサーとモーター制御を組み合わせた画像系を自動運転やロボットに活かそうというよう

①では、モーター高回転時の性能向上と省力化、国際競争力の強化に向けた基盤の確立を進めている。

④では、回折格子レーザー技術を用いて非接触型の生体認識システムを開発している。カメラと回折格子を一体化して小型化を進めており、8月

⑤では、回折格子レーザー技術を用いて非接触型の生体認識システムを開発している。カメラと回折格子を一体化して小型化を進めており、8月

⑥では、回折格子レーザー技術を用いて非接触型の生体認識システムを開発している。カメラと回折格子を一体化して小型化を進めており、8月

設立は2007年2月ですね。大江 当社の全員が熟練したLSI設計者だ。

の開発・設計で培ってきたミックスドシグナル技術が当社の基礎になっており、アナログの検証ま

大い、LSIの設計数自体が減少傾向にあるうえ、IDMが社内で検証するケースも増えている

⑦では、回折格子レーザー技術を用いて非接触型の生体認識システムを開発している。カメラと回折格子を一体化して小型化を進めており、8月

⑧では、回折格子レーザー技術を用いて非接触型の生体認識システムを開発している。カメラと回折格子を一体化して小型化を進めており、8月

⑨では、回折格子レーザー技術を用いて非接触型の生体認識システムを開発している。カメラと回折格子を一体化して小型化を進めており、8月

⑩では、回折格子レーザー技術を用いて非接触型の生体認識システムを開発している。カメラと回折格子を一体化して小型化を進めており、8月

⑪では、回折格子レーザー技術を用いて非接触型の生体認識システムを開発している。カメラと回折格子を一体化して小型化を進めており、8月

明宏